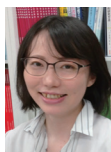


子どもの意思決定支援や看護師の道徳的苦悩に関する研究



看護学科（小児看護学）

まる やま とも み

丸山 始美

●連絡先

TEL：054-202-2915

E-Mail：maruyama@u-shizuoka-ken.ac.jp

キーワード

小児がん、看護師、意思決定、道徳的苦悩、道徳的レジリエンス、ターミナル期、ナラティブ、アドバンスケアプランニング



小児看護の医療現場で、子どもの意思決定支援の現状に苦悩を感じていました。そこで、看護師の意思決定支援や道徳的苦悩、看護師のレジリエンスの研究活動を行っています。

小児医療現場では、治療決定権は親権者である家族に委ねられることが多く、成長発達過程にある子どもを含めて意思決定することが難しい場合があります。看護師は、子どもの意思を尊重したいと考えていても、子どもがターミナル期の場合は子どもの意向が不明瞭であるため、子どもの意向を尊重することは難しいと感じています。看護師はそのような道徳的苦悩を抱きやすく、精神的な疲弊を感じたり、離職につながる危険性は高いと言われています。

そこで、看護師がより良い看護を実践するには、辛く苦しい状況から回復する力（道徳的レジリエンス）を持つ必要があると考えています。

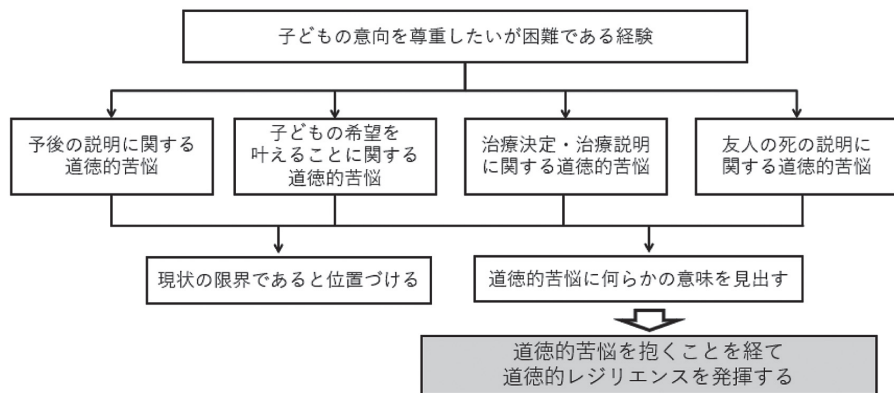


図1 道徳的苦悩を抱く看護師の概念図

アピールポイント

小児医療現場の看護師経験を経て、臨床で感じた倫理的な疑問や課題に関する研究に取り組んでいます。